

「課題解決先進県」における図書館

－健康・安心・防災情報サービスの取組について－

森澤 奈那

オーテピア高知図書館

オーテピア高知図書館は、全国初となる県市合築による図書館で、高知県立図書館と高知市立市民図書館本館がそれぞれの機能と役割を果たしながら共同運営している。

高知県は、全国に先行して高齢化は10年、人口減少は15年進んでいる「課題先進県」であり、当館では、利用者自身や地域のさまざまな課題の解決に資する支援を行う「課題解決型サービス」に特に力を入れている。高知県と高知市は「日本一の健康長寿県づくり」や「高知市型共生社会の実現」等の政策を掲げており、当館ではそれらを取り入れつつ、地域の課題解決を目指して、様々な専門機関や団体と協力・連携しながらサービスを提供している。

開架部分だけで約35万点の資料を提供しており、関係分野の資料の充実にも力を入れている。選書は、県市それぞれの収集方針・選定基準に基づき、市は入門書・実用書、県は専門書や調査研究、市町村立図書館等の支援に有用な資料というように、それぞれの特色と役割の違いを活かした幅広い蔵書構成となっており、書架には県と市の本が区別なく並んでいる。しかし、サービスの根幹を成すのは資料の充実だけではなく、「他機関との連携」であり、図書館以外の関係機関・団体とも積極的に連携している。

「健康・安心・防災情報サービス」は、当館で提供している課題解決型サービスの一つである。開架資料5万点に加えて、館内で配布するチラシやパンフレット類、掲示するポスター類は、主に県市各課や大学病院から提供を受けている。連携をすることで図書館は本の展示に加え一歩踏み込んだ情報提供が可能となり、専門機関は新たな人との出会いやつながりが得られる。図書館の持つ「足の運びやすさ」は多くの方に情報を届けることに有効である。こうした取組を県市の各所属に対しても都度発信し、そこから新たな連携が始まることもある。連携の形や深さの程度は様々だが、メリットを挙げればきりが無い。

連携の強みが顕著に表れている取組の一例として、「がん情報の提供」がある。当館では毎年、大学病院やがん相談支援センターなどと連携して「がん相談会」を開催している。相談会とあわせて行う図書展示で並べる本は連携機関の職員と司書と一緒に選び、選んだ本を司書がブックリストに仕立て、展示後も配布する。また、パネル展のパネルは大学病院が専門知識に基づいて作成する。広報は図書館と連携先のそれぞれで行うため、より幅広い対象にアピールできている。「図書館でやっているから来た」という声も多い。

このように、当館の「健康・安心・防災情報サービス」は専門機関との連携なくしては成立しない。互いに連携し、協力することで、それぞれの強みを生かし、弱みを補完することができる。それは即ち、単独で提供するよりも確かな情報を、はるかに多くの県民・市民に届けられるということだ。今後も他機関との連携を強化し、必要な人に必要な情報を届けられるよう、サービスの普及・啓発と利用促進に取り組むたい。